

26 ミャンマーリハビリテーション強化プロジェクトへの協力

企画・情報部 西村陽子、通島尚子、千田佳遠里
顧問 江藤文夫
リハビリテーション部 関口 進、井上美紀
元看護部長 田村玉美
元 JICA ミャンマー長期専門家 大澤論樹彦

【プロジェクトの概要】

本プロジェクトは、ミャンマーにおけるリハビリテーション医療の向上を目的として 2008 年 7 月から 2013 年 7 月までの 5 年間、JICA (国際協力機構) の技術プロジェクトとして実施された。

実施体制は、ミャンマーで唯一のリハビリテーション専門病院である保健省下の国立リハビリテーション病院 (NRH) を活動の場とし、日本側は当センターを中心としてミャンマーのリハビリテーション従事者の研修受け入れ、現地での専門家研修の指導のために医師、理学療法士、作業療法士、看護師の派遣を行った。現地には日本人長期専門家が配置され、必要な活動ができるように、プロジェクトの舵取り役を担った。

【プロジェクトの目標と期待される成果】

目 標：国立リハビリテーション病院における質の高いリハビリテーションサービスを提供するためのシステムが強化される。

- 成 果**：
- 1 リハビリテーションサービスに関する国立リハビリテーション病院の訓練システムが向上する。
 - 2 国立リハビリテーション病院におけるリハビリテーションサービスの質を改善するためのシステムが強化される。
 - 3 国立リハビリテーション病院と、社会福祉省関連施設を含むリハ関連施設との連携が向上する。

【活動と成果】

成果 1 に対しては、指導者研修プログラムが実施され、主に脊髄損傷、脳性麻痺、脳卒中の 3 テーマでミャンマー各地から理学療法士が集まり、現地及び日本人専門家が講義・実技指導を行った。また、現地での研修後に、本邦研修で実際のリハビリテーションがどのようなチームアプローチや管理体制で行われているかを研修した。その研修受講者は次の指導者として後輩の育成を行っている。

成果 2 に対しては、病院内の情報共有の改善、リスク管理の導入、患者満足度の調査、患者用 (疾患別) パンフレット等の作成・配布、院内教育を目的とした全専門職によるケーススタディの開催等の活動が行われた。

成果 3 に対しては、セミナー、ワークショップを開催し、他の病院やリハ関連施設との情報交換や連携を進め、患者へのサービス情報紹介件数が増大した。

【今後の課題】

作業療法士、言語聴覚士等、ミャンマーで養成されていなかった専門職の養成、更なる専門的研修を行い、地方の病院におけるリハビリテーションの拡充等が求められる。